






平成28年度  
地域福祉コーディネーター(兼生活支援コーディネーター)  
集いの場(サロン等)支援活動一覧

---

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
石巻	立ち上げサポート	住吉	立ち上げサポート	住吉（駅北復興）	継続サポート	山下（山下二）	立ち上げサポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>「同じ住宅に住んでいるのに 住民の顔が分からない」 「仮設の時に戻りたい…」 「中央第二復興住宅」において、入居者同士のつながりがない状況、また仮設住宅の時のような活発な交流を懐かしむ声が出ていたが、取り組みのきっかけが見いだせずにいる状況があった。</p>		<p>「交流をしたいが、場所がない」 「足が悪くて、地域の集会所に歩いて行くことができない…」 民間の借り上げ型の復興住宅「南中里一丁目 復興公営住宅」において、集まりの場を求める声が多い一方で、集会所などの集まるための「場」がなく、集まることができずにいた。</p>		<p>復興公営住宅で半年間続けてきたサロンの参加者から聞かれた声です。 「介護がづらい、苦しい」 「これから生活できるか不安だ」 その声にある住民の方がこのような声をかけてくれました。 「介護している人で集まって苦しさや楽しさを共有する場を作ろう」</p>		<p>はつらつ元気に参加していた方の声 「1年間とても楽しかった。こんなに人と話したり運動するのが元気になるとは考えたことなかった。」 「でも、私の地域にはこういう集える場やみんなで話せる場がない。寂しくなる」</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p><b>住民同士の支えあいの一歩としてのサロンの実施『ひまわりサロン』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協が住宅の住民が集まるきっかけづくりを行い、「これからは自分たちでこの住宅を盛り上げていこう！」という声から、「中央第二ひまわり会」が設立。会の活動の第一歩として、月一回サロンを開催している。</li> <li>・生活の中で気になることや心配なことなども話し合わせ、自然なコミュニケーションの中から日常の「支え合い」の視点が生まれている。</li> </ul>		<p><b>住民と専門職が共働で集まりの場のきっかけづくり『あおぞらふれあい会』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この住宅の課題を共有していた「住吉エリアミーティング」参画団体と住民が協力し、野外のお茶っこ会を実施。住宅だけでなく周辺の地域の住民も参加し、住民同士の交流のきっかけとなった。</li> <li>・この取り組みの後、住民同士や地域との交流の場づくりについて考える「南中里復興住宅あすなる会」が立ち上がり、住民主体の取り組みへと発展した。</li> </ul>		<p><b>『サロンから生まれた支え合い』～認知症介護者家族の会～</b></p> <p>サロンという場に人が集い、自然と生まれた上記の声から、住民さん自身が支え合っていこうという旨の声を発してくれました。このことはサロンが持つ大切な”新たな支え合いを生むきっかけの場機能”であると感じた事例です。地域福祉コーディネーターとして、この想いのやり取りを形作るサポートをしH29.3月現在で1年間続いています。</p>		<p><b>『事業から生まれた住民活動』</b></p> <p>はつらつ元気教室から上記の声を拾いまずは町内会への投げかけや仲間づくりから一緒に行いました。もともと顔の見える関係性が出来ていた地域という事もあり、開催場所、頻度、どのような活動をするかがトントン拍子に決まり、その話合いの過程で地域の方の力が発揮できる場にしようということで、健康体操もミニコンサートも住民さんが担っています。</p>	
							



⑤		⑥		⑦		⑧	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
稲井（八津）	立ち上げサポート	稲井（仮設住宅）	継続サポート	門脇	継続サポート	釜・大街道	立ち上げサポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>・高齢化率32%の農村地区。 婦人会、老人クラブも解散し高齢化とともに地域内の交流も希薄化してきた地区。 「高齢化と共に2つの地区の行き来ができなくなってきた・・・」 「地区でも昔のような集まりが作れればいいんだけど・・・」介護予防教室に参加していた方の想い。</p>		<p>&lt;仮設住宅&gt; 「転居が進み、サロンの継続が難しくなっている」 →担い手力の減少 「でもやっぱり集いの場は必要！」 &lt;ボランティアグループ&gt; 「自分たちの住む地域でできる事に取り組みたい！」 →生まれるボランティア力</p>		<p>震災後、既存23世帯が中心となり、介護予防・つながりづくり活動に力を入れてきた。その地域に復興住宅151世帯が建設された。  「復興住宅の人たちに、少しでも外に出る機会をつくりたい。」 「背景の分からない人との関わりは、何か起きた時のリスクが大きい。」</p>		<p>「復興住宅で日中いる人たちで、顔合わせてお茶のみがしたい。」  「周りに住んでる人で、日中いる人たちにもよってもらいたい。」  復興住宅へ訪問活動をしている民生委員より相談にのってほしいと連絡が入った。</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『年をとっても元気にくらしたい！ ～八津げんきの会～』</p> <p>・想いに賛同する協力者集めを提案し、会（チーム）としての構築を目指し稲井包括と協働でサポートを実施。 ・活動のテーマ決めやモチベーションを高める支援。計画立てをサポート。 ・サロン活動+町内会活動=地域全体の意識変革へ向けた働きかけ。 ◎八津げんきサロン 月1回開催中。 町内会が、会館改修（バリアフリー化）を進めるなど、地域全体で“福祉力”を高めるための基盤づくりが進められている。</p>		<p>『みんなのサロン・居場所づくり』</p> <p>・ボランティアグループ五月会と ①仮設状況の調査（ニーズ調査） ②仮設サロン会と話し合い（協議） ③コラボ企画・合同サロンの実施へ（企画実施） ・近隣のグループホームへの声掛けなど地域を巻き込むための調整を担う。 ◎仮設住宅の集会所でサロン活動を実施している。様々な立場の住民が集い、地域（仮設）の生活課題を多様な人との結びつきでクリアし、みんなチカラで居場所づくりを継続されている。</p>		<p>『引っ越してきた人たちと一緒に活動したい。でも不安。』</p> <p>◎資源把握・関係形成 活動への思い。関係団体の把握。 ●ニーズキャッチ ◎話し合う場の提案 課題の明確化。見立ての提案。 ●住民主催のミーティング実施 ◎協働推進役 住民の感じていることを真摯に受け止める雰囲気づくり。  ☆住民と専門職とのつながりが意識化され、住民の主体的活動が安心して続けられている。</p>		<p>『大街道西第2復興住宅おちゃっこすっぺし』</p> <p>◎話し合いの場づくり 復興住宅住民・民生委員・CSCで思いの共有。 ●週1回開催していこう ◎助成金の情報・サポート ●周辺住民と取り組めることを企画 ◎包括主催『介護予防教室』開催 日程・内容調整。民生委員を通じて周辺住民への声掛け。  ☆七夕会・食事会など住民の特技を活かした活動、民生委員による見守り活動が継続されている。</p>	
				 			



⑨		⑩		⑪		⑫	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
蛇田	立ち上げサポート	蛇田	継続サポート	蛇田	立ち上げサポート	蛇田	継続サポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>～新蛇田に出来た大規模復興住宅～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「集まりがなく寂しい」という声。</li> <li>・集会所の利用は少なく、住民同士が話し合う機会もない。一方…</li> <li>・住民の孤立に気付き「何かが必要」「何かしたい」との思いを持つ住民もいる。</li> </ul>		<p>～蛇田の従来地区～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔からの知り合いの参加はあるものの、参加者は固定かつ減少傾向。</li> <li>・震災を機に転居のあった新しい住民にも参加してほしい。</li> <li>でも・・</li> <li>・高齢者ばかりで不安、自分たちだけでは継続できない・・。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興住宅に入居したが、知り合いがいないため、家に閉じこもりがちな住民が多い。</li> <li>・集会所があまり利用されていないので、皆が集まれる機会が欲しい。</li> <li>・団地会として、住民同士の交流の場をつくりたいが、活動の主となり動く住民がおらず、何をしたらよいかわからない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい住宅地で、高齢者のためのお茶会を行っているが、中心となる世話人の方が不在になる場合は活動が中止になる。</li> <li>・活動内容は、皆で話合うことはなく、世話人の方で考えているため、負担が大きい。また、参加者が高齢者のため、世話人と参加者の位置づけがはっきりしている。</li> </ul>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『あけぼの北住宅サロン』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員と住民の思いの整理から始め、「何かが必要」と感じている住民同士の話し合いの場を民生委員とともに数回実施。</li> <li>・「一人ではできないことも力をあわせればできるね」とサロンがスタート。</li> <li>・サロンを通じての住民同士の気付きから、サロンに来れない人への声掛けのほか、団地内住民の居場所から地域住民の居場所になりつつある。</li> </ul>		<p>『中塚1さつき会』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の話し合いに参加。（課題や思いの整理、世話人のフォロー）</li> <li>・関係機関と役割や関わり方の共有。</li> <li>・町内回覧用のチラシの作成補助。</li> <li>・話し合いなどポイントとなる回への参加や定期的な電話連絡 など。</li> <li>・チラシの町内回覧により参加者が増えたほか、つかず離れずの関係が、住民の安心を生み、活動の安定につながっている。</li> </ul>		<p>『繋がりのない復興住宅のお茶会』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部支援団体のコンサートに参加した住民等から、生活状況について情報収集。団地会役員会で、月二回のお茶会の開催を団地会に提案。</li> <li>・役員が中心となり日程調整や準備を行い、お茶会を実施する。二回目までは、開催の準備等のサポートを行うが、三回目以降は、住民同士でお茶会やクリスマス会を開催。</li> <li>・世話人の中で、お茶会の準備や受付等の役割分担ができており、一人暮らしの方や閉じこもりがちな高齢者へ参加を呼びかけている。</li> </ul>		<p>『新旧住民が混在するお茶会』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動をサポートしている支援団体と会の現状について情報共有し、お互いのかかわりについて打合せ。</li> <li>・参加者の方と活動内容についての打合せの場を設けることで、どんなことをしたいかを皆で意見を出し合える雰囲気になった。</li> <li>・参加者もお茶会の活動内容を考えることによって、世話人の負担が減り、来年度以降も活動を継続することになった。</li> </ul>	
							

⑬		⑭		⑮		⑯	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
湊（伊原津）	立ち上げサポート	湊（鹿妻）	立ち上げサポート	渡波（全域）	立ち上げサポート	渡波（浜松町）	継続サポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>震災によって「地域の集いの場がなくなった」という声や</p> <p>「高齢者が多く、予防的な視点での体操や運動がしたい」との声を</p> <p>聞いた民生委員さんが何か取り組みたい！と相談を受けて</p>		<p>「地域でこども達の為に何かしたい！」の声から</p> <p>こども食堂を立ち上げる</p> <p>地域サロン（世代間交流）的な居場所としての役割を持たせたい</p>		<p>「交流の場に来られない方のためのサロン活動をしたい」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区全体ではサロン活動が活発な反面、来ない人は来ない、という課題は依然として残っている。</li> <li>・身体状況や、大勢の場が苦手など様々な理由で交流の場に来られない方に目を向けた活動の必要性。</li> </ul>		<p>「ものづくりを教えてくださいに来てほしい」</p> <p>「生きづらさを抱える若者が、地域住民と触れ合う時間を作りたい」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりサロンでは、常に目新しい”ネタ”が求められている。</li> <li>・社会復帰を目指す若者には、交流のきっかけ、成功体験が必要。</li> </ul>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『いばらづサロン』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区民生委員へ地域包括支援センターと共に聞き取り</li> <li>・必要に応じた助成金の活用</li> <li>・場所の選定（地域資源の共有と共に考える事を行う）</li> <li>・月1回の開催。自分たちで出来る事をやる</li> </ul> 		<p>『かづま地域こども食堂』</p> <p>町内会との調整（町内会長や民生委員児童委員、主任児童委員とサロン代表者を繋ぐ）や 小学校との調整（学校からの周知協力と必要な情報共有）また 仲間集め（サロン代表者と地域住民、保護者などに広く協力依頼）を行った結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所としての機能</li> <li>・地域の交流の場としての機能</li> <li>・孤独を抱える方の居場所としての機能を持つサロンとなった</li> </ul> 		<p>サロンと生活支援が結びついた『訪問型サロン』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流がなく寂しさを持つ方の自宅を訪ね、お茶っこをしにいく活動を立上げ。CSCとして、ボランティアメンバーの想いに寄り添い伴走。</li> <li>・「訪問することでこんなに喜んでくれる人がいる」とメンバーが実感。</li> <li>・訪問した方やその友人からの「気になる人」情報により、芋づる式に活動が広がっている。</li> </ul> 		<p>『若者の受け皿機能』を持つものづくりサロン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻地域若者サポートステーションから相談を受け、CSCが既存のものづくりサロンにつないだ。</li> <li>・共にもものづくりをする中で両者が交流。若者の性格を察しながら優しく話しかける住民。</li> <li>・「自分たちが楽しむサロンが、若者のためにもなる」という視点が生まれている。</li> </ul> 	



⑰		⑱		⑲		⑳	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
荻浜地区	継続サポート	牡鹿地区	継続サポート	河北（飯野新田）	立ち上げサポート	河北（大森）	継続サポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>「高台移転したら、気軽に集まれない。」 「家から出なくなる人が増えそう」</p> <p>急な坂の上に高台が建つため、友人宅でお茶っこをしたり、集会場で集まるなど日常行われていたことが困難になる。</p>		<p>「孫が大きくなってから、小学校に行きづらくて・・・」 「もっと生徒と地域の人たちが関わってもらいたい」</p> <p>過疎高齢化が進み、児童の減少、高齢者世帯の増加する中で、地域の高齢者と生徒との接点が日常生活でも減っている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に交流の場がない。</li> <li>・生きがいデイがもうすぐ終了。</li> <li>・参加者から生きがいデイを継続してほしいとの要望。</li> </ul> <p>※地域コミュニティの場が必要。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月皆が集まって楽しみたい。</li> <li>・包括の支援を受けて年5回活動。</li> <li>・区長が一人で取りまとめていた。</li> </ul> <p>※自主的な活動の場づくりが必要。</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『ノルディックウォーキングを活用した浜歩きの実施』</p> <p>高台移転後の現状や課題をみんなで共有する場を設定。他地区の事例の紹介などをサポート。他機関とのコーディネート。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状や課題を住民と整理したことで、自主的な活動に発展した。</li> <li>・住民主体の活動をサポートするネットワークが生まれた。（保健師、包括、公民館、中学校、寺など）</li> </ul>		<p>『地域のサロンと小学校とのグラウンドゴルフ交流会』</p> <p>小学校とサロン代表が話す場を設定。お互いのニーズを確認し、交流イベントの実施を提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と地域の高齢者が交流する機会となった。</li> <li>・子どもとの交流をきっかけに、普段サロンに出ない方も参加した。</li> <li>・今後も継続して地域と学校とが関わるきっかけとなった。</li> </ul>		<p>『生きがいデイからサロンへ』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいデイに参加して住民との信頼関係の構築。</li> <li>・住民より「楽しい集まりがずっと続いて欲しい」との声。</li> <li>・参加者の中から協力者を見つけ、一緒に打ち合わせ、区長や民生委員に協力をもらう。</li> <li>・サロンの自主化が決定。</li> <li>・新たに参加者をチラシで募集。</li> </ul> <p>※高齢者のコミュニティの場となる。</p>		<p>『サロンを住民の力で運営』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括、区長、民生委員との協議。</li> <li>・手助けは最小限、住民主体を意識。</li> <li>・お茶飲みの時間を設け、参加者間のコミュニティづくりを補助。</li> <li>・皆の集まりを自主的な活動にする意味を伝える。</li> <li>・参加者で会の名称を決める。</li> </ul> <p>※参加者の自主性が生まれ、生き生きと活動している。</p>	
							

②1		②2		②3		②4	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
北上地区	立ち上げサポート	雄勝地区	継続サポート	河南（鹿又）	立ち上げサポート	河南（須江）	立ち上げサポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ地区でもあまり顔を合わせる機会がない。</li> <li>・集まりの場があれば参加したい。</li> <li>・何かしらの事業が始まるまで待っている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・副会長がサロン会の出し物の調整を毎回一人で行っている。</li> <li>・その副会長が体調を崩され、調整が大変になってきた。</li> <li>・周りの役員も、手を貸したいが、今後の予定がわからないので、何を手伝ったらよいかかわからない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・はつらつ元気教室を行ってきたが今後も皆で集まり体操や交流をつづけていきたい。</li> <li>・震災後世帯数も増え、新しい方と顔を合わせる機会が少ない。</li> <li>・高齢の方は家で過ごす事が多く閉じこもり防止のためにも外出し皆と触れ合って笑ってほしい。 (行政委員)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区に集会所があるので、もっと活用できる機会があればよい。</li> <li>・昔に比べて近所付き合いが減り地域の人達が顔を合わせる機会も少なくなった。</li> <li>・年を重ねても地域で元気に暮らしたい。</li> </ul>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『はつらつ元気教室同窓会から自主的な集まりへ』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会の参加者に個別に伺い、それぞれの思いを聞く。</li> <li>・参加への啓発ツール(チラシ)作成。</li> <li>・中心となる方へ、他の参加者への意向確認を促す。</li> <li>・関係機関と情報を共有し、会へのサポートの促がし。</li> </ul> <p>自分達で集まりの場を作ることであり、自分達にも「出来る」という気づきが生まれている。</p> 		<p>『大須あさひの里話し合いの場づくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの場として、役員会の開催を提案。話し合う機会を設定。</li> <li>・それぞれの思いを引出し、可視化。(ファシリテート&amp;グラフィク)</li> <li>・地域資源・情報の提供・提案</li> <li>・役員内で、何時、何を行うのか合意形成を図る。</li> </ul> <p>会を皆で盛り上げていこうという自発性や愛着が生まれ、会の運営を積極的に協力されるようになった。</p> 		<p>『はつらつ元気教室からの自主化』 谷地中結いの会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの場づくり。思いの共有。</li> <li>・情報提供(他地区の活動や運営事例。助成金)</li> <li>・専門職へのつなぎ(保健師、包括)</li> </ul> <p>震災後に転居して来た方と既存住民の出会いと交流の場になった。</p> <p>情報交換、健康づくり、お茶会を通じて地域の事を考える場となる。</p> <p>民生委員活動の展開</p> 		<p>『地域住民の思いが集いの場へ』 美笑サロン会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンの説明(支所同行)</li> <li>・情報提供(他地区の活動や運営事例。助成金)</li> <li>・専門職との協働</li> <li>・担い手の育成(体操やレクを実践)</li> </ul> <p>毎回体操を行う、保健師や栄養士の講話を受けるなど、介護予防の意識が高まり、皆で楽しく活動している。</p> <p>サロンがない地区へ波及効果。他地区でも立ち上げを検討している。</p> 	

②5		②6	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
桃生（新田）	立ち上げサポート	桃生（神取下）	継続サポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>「サロンの立ち上げがなかなか進まない」、「自分の地区にサロンがないことに責任感を感じる」と話す民生委員・行政委員・福祉協力員。 「地区内に気軽に集まって話せる機会がほしい」と相談を寄せる70代の男性。</p>		<p>「今じゃどの家の孫かわからなくて、声を掛けづらくなった」と寂しそうに話す地区のお年寄り。 少子化や共働き世帯の増加に伴う子ども会活動の減少。 「地区の気になる子どもとどう関わっていいかわからない」と話すサロンのメンバー。</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p><b>『共同のサロンづくり』</b></p> <p>相談の声を民生委員へつなぎ、民生委員・行政委員・福祉協力員との打合せを実施。 地図を用いて地区の現状を確認。 （班編成、集会所の場所など） 「なぜこの地区にサロンが必要なのか」を三者と確認し、活動実施に向け役割分担を明確化。 ☆春に一度、地区の住民が集える機会を設けることに。</p>		<p><b>『神取下子ども食堂』（世代間交流）</b></p> <p>上記の声をつなぐ場として交流会を提案し実施に向けサポート。 子どもたちとサロン会と一緒に料理をし、招待したお年寄りと食事を楽しむ。 「登校時の子どもたちの姿を窓から眺めるようになった」と話す参加者。 ☆子どもの見守りが地区内に生まれる。</p>	
